

日本における医史料の蒐集と保存について

中山 沃

私は六年前まで岡山大学医学部に勤務しておりました。岡山大学附属図書館鹿田分館（通称医学図書館）が多くの古医書を所蔵しておりましたが、順序不同の手書きの目録しかありませんでした。何とか整理された古医書目録を作成したいものだと常日頃考えていました。たまたま本館の運営委員に就任し、本館の池田家文庫（備前藩主池田家の旧所蔵文書及び書籍）の整備のため毎年文部省から補助金が出ていることを知りました。医学図書館には旧岡山藩の医学館所蔵の朱印の押されている書籍もかなりありましたので、主張して池田家文庫の方から目録作成費用を割いてもらうことに成功しました。そして文学部史学科の大学院生のアルバイトで目録作成のためのカードが作られました。このカードの記載の校訂を小生がするはずでしたが、現役の公務があり充分に校訂できませんでした。

一方、財団法人大原農業研究所から引き継がれ、岡山大学図書館農業生物研究所分館（倉敷市所在）に所管されている近世期及び明治期の農書のコレクション（大原農書文庫）の目録と一緒にした『大原農書文庫・古医書集成目録』が、岡山大学附属図書館から、昭和六二年（一九八七）三月に刊行され、非売品で、全国の大学の図書館に寄贈されました。私も友人の一部に贈呈しました。このような目録を作るには、金と熱心に調査してくれる人が必要です。

岡山大学在任中の調査で、岡山市近辺で沢山の古医書を所蔵している方が三家あることを知りました。

(一) 倉敷市 赤木家、(二) 御津郡建部町 吉岡家、(三) 高梁市 仲田家、その他、(四) 川崎医科大学であります。赤木家は医師である当主が手書きの目録を作成しており、私は写しを頂いております。珍しいものとして、中井履軒著「越俎弄筆」があります。

吉岡家のもものは、十数年前私が調査し、手書きの目録を私が所有しています。現在津山洋学資料館が再調査すべく、接触中とのことです。

仲田家の古医書は全部見せていただいたのですが、目録はできておらず、私の研究に直接関係のあるものだけ記録し、一部借りて、複写しておりますが、すべての古医書の目録の作成はできませんでした。当主は小児科医で石田純郎先生と同門ですので、目録の作成を期待しています。

川崎医科大学附属図書館には創設当時に寄贈された古医書二〇種、医学関連の自然科学関係の書物一六種があります(第三高等学校医学部講義ノート、眼科学大西克巳、花柳病学及び皮膚病学瀬尾原始、内科学井上善次郎、薬物学及び小児科学更井久庸、法医学桂田富士郎、外科学坂田快太郎、外科各論山形仲芸、産科学及び婦人病学熊谷省三、内科学菅之芳、不明の医学校講義録筆者三輪愈、精神病学木南亭恩師、法医学教場筆記佐々木□、病理学鎌田満太郎、内科各論川原汎、薬物学及び眼科小倉開治、外科通論及び軍陣外科・繙帯学花房道純などを含む)。

子孫が興味を持って保存していくことが望ましいのですが、二代続けて同じ医学史の研究や趣味を継続できることは難しいのが現実です。貴重な資料の所在だけは継続的に確認してゆくことが重要と考えます。そのためにも、公的な医学資料館・博物館の設立が熱望されるわけであります。